

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育研究室 Lulu菊池		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	セラピストや保育士の多職種連携での支援	活動を行う中で、保育士とセラピストが一緒に行うことで、児童一人一人にあったサポートを提供している	専門職がその専門性にあった活動を主に行うとともに、多職種に対しても共有を行っていく
2	保育士による児童に寄り添った支援	児童の精神的な崩れや不穏に対し児童主体の支援・寄り添った支援を保育士主導のもと提供している	児童への対応方法を保育士主導のもと情報共有を行っていく
3	セラピストによる身体面へのアプローチ	個々にあった運動課題の提供をセラピストが主導して提供している	個々の運動能力の共有や運動課題の情報共有を行っていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境的に視覚刺激や聴覚刺激が入りやすい環境になってしまう場面がある。	ワンフロアでの支援を行っているため、パーティションで仕切り視覚情報をコントロールしているものの、音や隙間から見えてしまうため、注意がそれてしまっている。	パーティションを増やし隙間をなくしたり、活動によっては外活動と内活動で分けて活動を行う。
2	施設の構成上、バギーや車いすの移動には十分なスペースでない箇所がある	重心児施設ではないため、バギーや車いすに適した環境設定にはなっていない	防犯や安全上の問題もあるため、現状維持で必要に応じて環境設定を行う。
3			